

福祉医療協の歴史とこれから ⑥7

水口病院のあゆみとこれから

一般社団法人 水口病院
地域連携室 室長補佐 豊島 左智男

1. 初めに

当院は、江戸期に水口藩に仕えていた医師の末裔が、明治41年に精神科医療の為に水口病院を創設しました。当時、西欧医学に基づく精神科医療として、日本国内では極めて珍しい存在でした。精神科医療に対する理解が乏しい時代でもあり、並ならぬ苦労があったと思われます。

昭和に入ると、滋賀県と三重県で唯一の精神科病院として、両県の代用病院としての指定を受け更なる地域医療を支えてきました。その後も景気の影響に左右されつつも安全な医療を提供できる環境作りを目指し続けてきました。そして精神科医療を取り巻く環境は「病院から地域へ」、「患者さまの自立や社会参加及び社会復

帰」が大きなテーマとなり、当院でも障害者支援施設や高齢者施設の整備を行ってきました。現在は医療並び障害者施設、高齢者施設を運営するまでに成長し現在に至ります。「病める人にやすらぎと生きる力を」を理念に地域に根ざした精神科医療を行っています。

2. 沿革

- 明治41年 水口藩医の四男隠岐敬治郎が、軍医退役後に水口町に戻り、水口病院を創設
- 昭和10年 滋賀県と三重県から県の代用病院指定を受ける。
- 平成元年 特別養護老人ホーム「兆生園」設立
- 平成3年 「水口クリニック」開設
- 平成6年 老人保健施設「スキナヴィラ水口」設立
- 平成9年 滋賀県老人性認知症疾患センターに認定
- 平成12年 精神科デイケア「しろやま」開始
- 平成14年 地域生活支援センター「しろやま」設立
生活訓練施設「しろやまコミュニティハウス」設立
- 平成18年 地域連携室設立
- 平成22年 滋賀県認知症疾患医療センター指定



病院外観

- 平成24年 一般社団法人への移行
- 平成26年 グループホームしろやま設立
- 平成27年 介護老人保健施設
「スキナヴィラ甲賀」設立
- 平成30年 外国人介護人材育成及び雇用開始
- 令和2年 感染症対応診察室・陰圧室設置

3. 病院の概要

理事長：青木建亮
 院長：青木治亮
 創設：明治41年1月18日
 診察科目：精神科・老年精神科・心療内科・
 内科
 病床数：407床(精神科一般病棟：60床、
 精神科急性期治療病棟：50床、精神
 科療養病棟：237床、認知症治療病
 棟：60床)

4. 基本方針

理念：病める人にやすらぎと生きる力を
 方針：安全で質の高い医療・介護サービスを提供する。
 患者・利用者のニーズに沿った快適な環境を提供する。
 地域に開かれた医療・福祉サービスを提供する。
 働きやすい職場づくりを実践する。

5. 近年の取り組みと今後

～地域に根ざした精神科医療実現に向けて～
 精神科の患者さまは「障害と疾病を併せ持つ」と表現されるように、「生活の質」の向上の為に、治療のみならず生活環境や生活課題にも取り組む必要があります。その為当院では、外来診療のみならず、訪問看護、精神科デイケアなどの支援や地域支援者と連携して対応をしています。

また地域の高齢化に伴い高齢患者さまの受診が年々増加しています。特に認知症に関連する相談や問合せも増えており、認知症疾患医療センターでの鑑別診断や地域のかかりつけ医との連携した認知症治療を行っています。

精神科入院治療は総じて長期間になりやすい為、当院では急性期治療に力を入れています。入院時より退院を目指した治療計画を基に、多職種にて早期治療と地域生活への復帰を目指した入院治療を実践しています。その一方で、社会的入院患者の長期入院も課題の一つであります。精神科治療においては、認知症も含め慢性進行性の経過をたどる例が少なくありません。それらに対する医学的治療手法には限界があります。しかし疾患は難治性であっても、疾患後に生じた障害に対しては、多様な支援方法があると思います。このような患者さまに対して、一人一人に寄り添った医療を考え続けることも、当院の役割であると考えます。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、社会情勢は大きく変化しました。コロナ禍における生活困窮者の増加や地域生活の課題は、今後ますます深刻化していき、受診控えや深刻な生活課題に対してより一層の支援が必要になると思います。その為地域の支援機関との連携をさらに強化し、受療調整や入退院調整を行っていきたいと考えております。



グラウンドと遊歩道